

原油レポート

【頻発するナイジェリアの生産中断】

- 足元の価格動向**：OPECが6月11日の臨時総会で減産をしなかったことから原油価格（WTI期近）は軟化傾向にあったが、その後、低水準にある米国の原油在庫が一段と取り崩されていること、ストライキ発生によるナイジェリアの供給停止懸念を受けて、再び30ドルを上回っている。
- 市場参加者別のポジション**：投機筋ポジションの買い持ちと売り持ちがほぼ拮抗している。足元の原油相場は投機筋にとっても方向感がつかみづらいことを表している。
- 米国の在庫動向**：原油および石油製品の輸入は増加しているものの、需要が堅調なことから在庫は取り崩しが生じている。
- OPECの生産動向**：6月のOPEC10カ国の原油生産量は前月と比べて83万b/d少ない2570万b/dと、6月から適用された新しい生産枠（2540万b/d）が比較的良好に守られている。
- トピック**：今年に入ってからナイジェリアで民族紛争や石油産業のストライキが頻発しており、その度に原油生産が中断され、原油価格に大きな影響を与えている。硫黄分の少ないナイジェリア産原油はガソリンの生産に適していることもあり、生産量の4割弱が米国に輸出されている。そのため、ナイジェリア産原油の生産中断は米国の需給逼迫を招き、WTI原油の価格押し上げ要因となりやすい。最近では6月末にナイジェリア政府がガソリン価格を54%引き上げると決定したことに対し、石油労働者組合がゼネストを開始し、7月13日までに政府と合意できなければ生産を全面的に中断すると警告している。米国では毎年5月末から9月にかけてガソリン需要が盛り上がるため、この時期はガソリンの生産に適したナイジェリア産原油の引き合いが強まる傾向がある。足元の価格上昇はナイジェリアの生産中断観測を材料に買いが膨らんだことも一因であると考えられる。

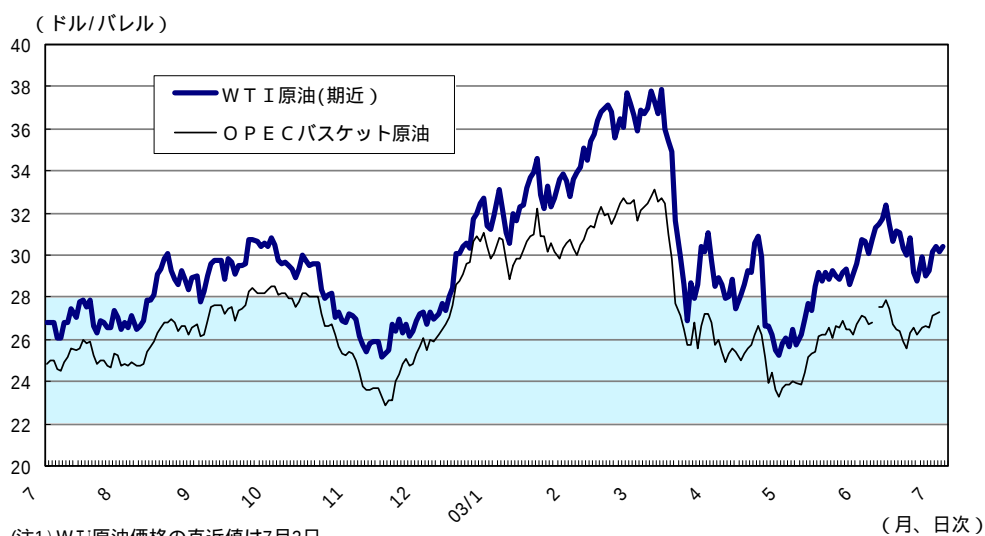


お問い合わせ先：調査部(東京)丸山俊 E-mail：shun.maruyama@ufji.co.jp
次回の公表予定日は7月22日（火）です。

1. 足元の価格動向

～ O P E C が 6 月 11 日の臨時総会で減産をしなかったことから原油価格（W T I 期近）は軟化傾向にあったが、その後、低水準にある米国の原油在庫が一段と取り崩されていること、ストライキ発生によるナイジェリアの供給停止懸念を受けて、再び 30 ドルを上回っている。

図表 1 原油価格の推移（2002 年 7 月以降）

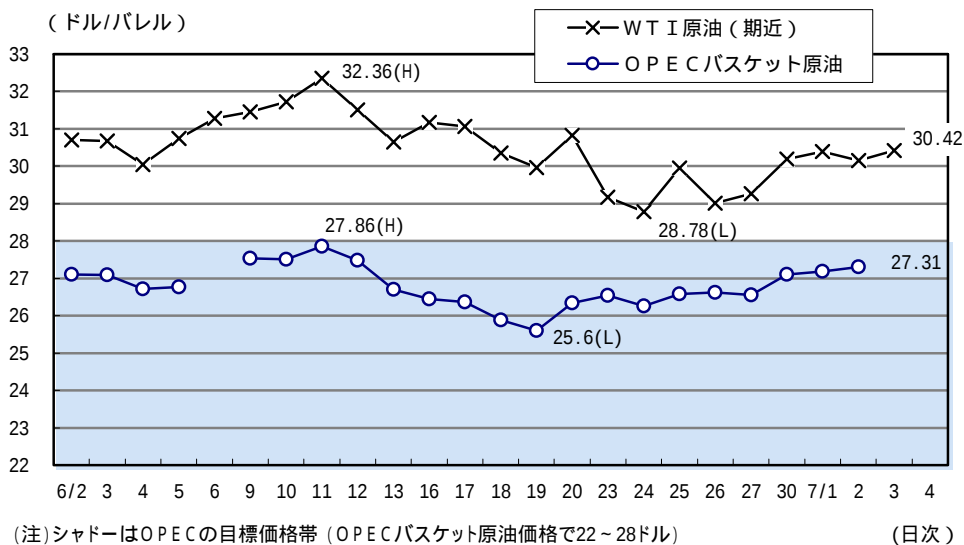


(注1) WTI原油価格の直近値は7月3日。

(注2) O P E C バスケット価格は、 アルジェリアのサハラ・ブレント、 インドネシアのミナス、 ナイジェリアのボニ・ライト、 サウジアラビアのアラビアン・ライト、 UAEのドバイ、 ベネズエラのティア・ジュアナ、 メキシコのイスムス(非O P E C) の7油種平均価格で、直近値は7月2日。

(注3) シャドーはO P E C の目標価格帯 (O P E C バスケット原油価格で22～28ドル)

図表 2 原油価格の推移（直近 1 ヲ月）

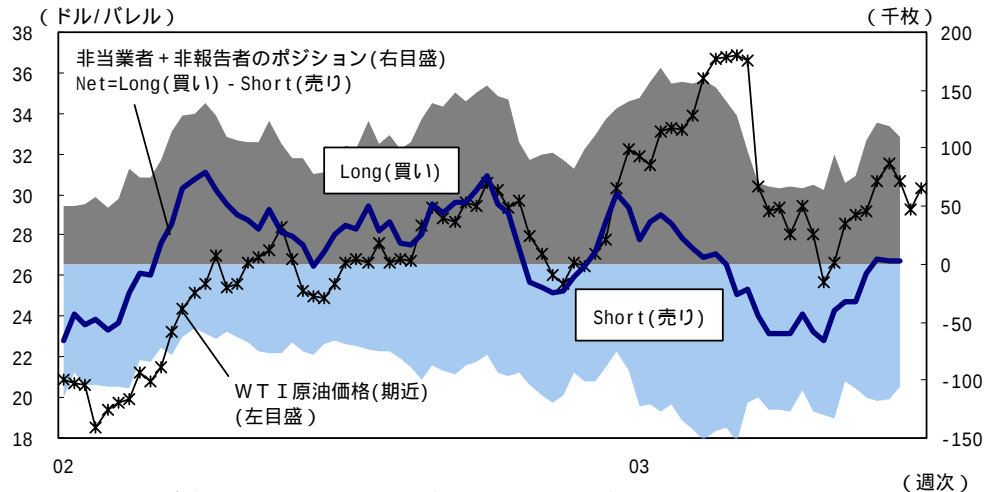


2. 市場参加者別のポジション (NYMEX)

(1) 投機筋 (非当業者と非報告者の合計) のポジション

～ O P E Cの生産枠据え置き決定後 (6/11) は、投機筋ポジションの買い持ちと売り持ちがほぼ拮抗している。足元の原油相場は投機筋にとっても方向感がつかみづらいことを表している。

図表3 投機筋のポジション (2002年～)

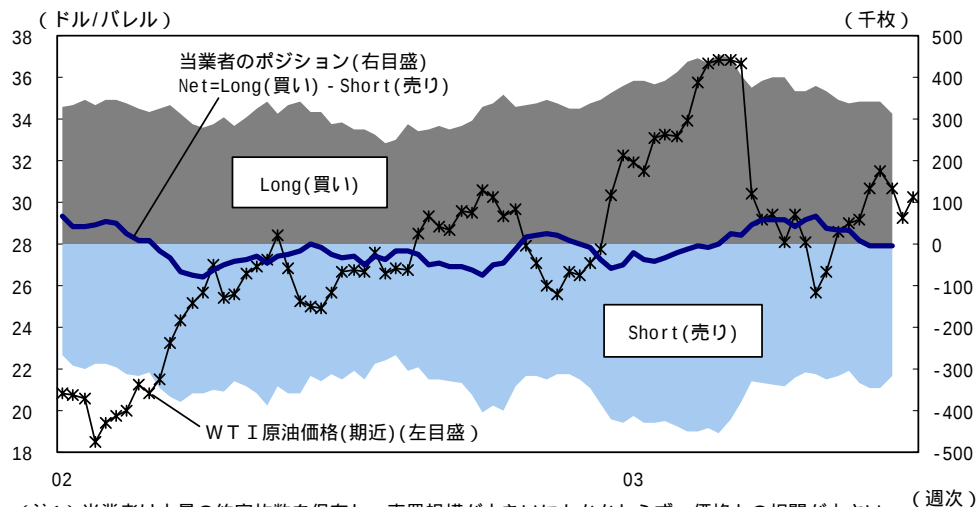


- (注1) 投機筋のポジション(Net)は買い持ちが多いか、売り持ちが多いかを見ており、売り持ちが減るか、あるいは買い持ちが増えれば価格が上昇するシグナルと解釈できる。
- (注2) ポジションはNYMEXで取引されるWTI先物原油のトレーダー建玉数を集計したもの。直近は6月24日発表分まで。WTI原油価格は7月3日分まで。
- (注3) 非当業者は報告義務のある取引参加者のうち、エンドユーザ - 以外の主に投機を目的とする者。非報告者は報告義務のない取引参加者で、ほとんどが投機を目的としていると推察される。

(2) 当業者のポジション

～ 価格が上がっているため、原油生産者が売り建玉を維持する一方で、エンドユーザが買い建玉を減らしていると推察される。

図表4 当業者のポジション (2002年～)

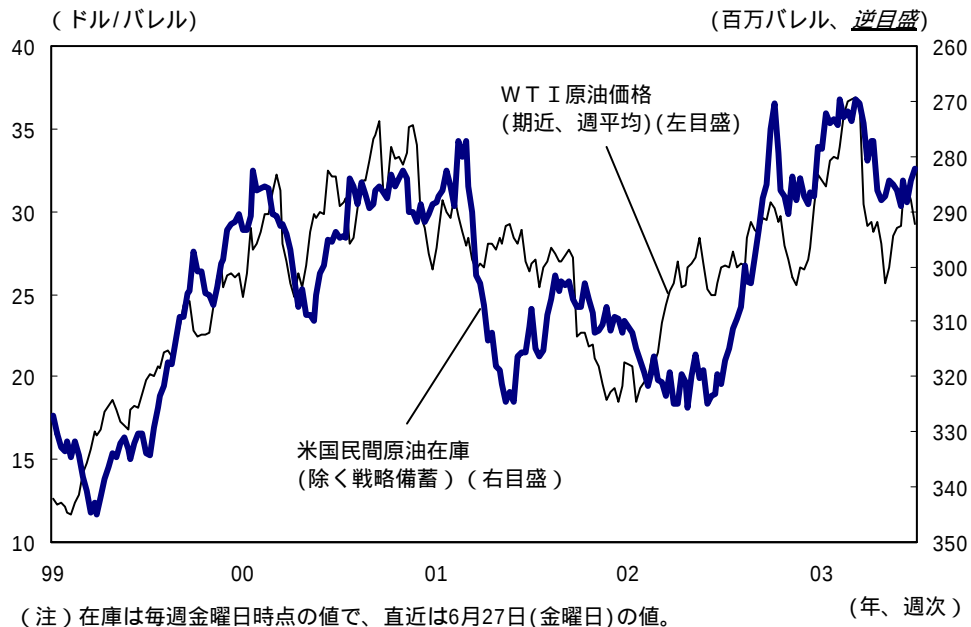


- (注1) 当業者は大量の約定枚数を保有し、売買規模が大きいにもかかわらず、価格との相関が小さい。短期的に売買を繰り返す投機筋と異なり、当業者は取引頻度も少なく、また、売買の基準も企業固有の予算や資金繰りなどに基づいて取引している。このため、当業者の売買は短期的なポジション変動に与える影響が小さいと考えられる。
- (注2) ポジションはNYMEXで取引されるWTI先物原油のトレーダー建玉数を集計したもの。直近は6月24日発表分まで。WTI原油価格は7月3日分まで。

3. 原油在庫の動向（米国）

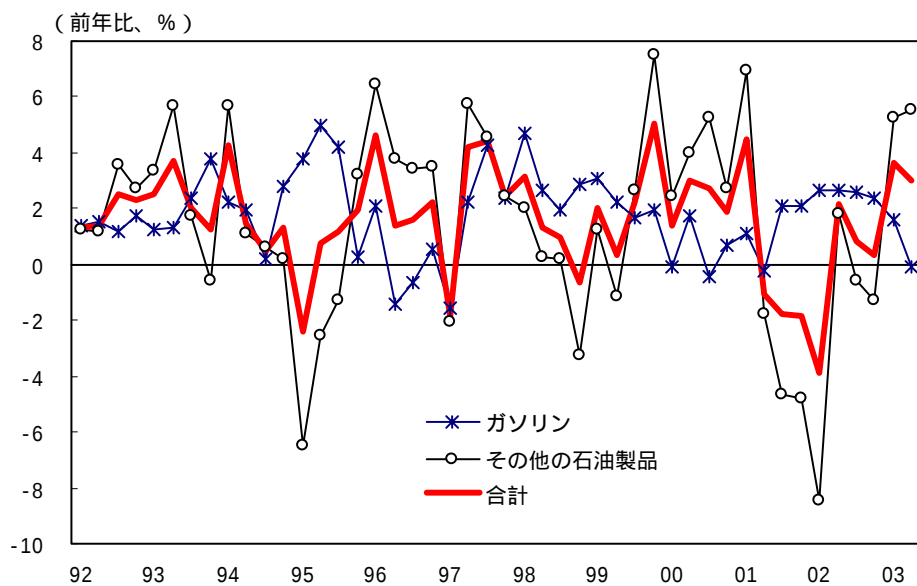
～ 原油および石油製品の輸入は増加しているものの、需要が堅調なことから在庫は取り崩しが生じている。

図表5 米国民間原油在庫の動向



～ 製品需要は堅調。内訳をみると、ガソリンがこれまでの反動もあり伸びが低下しているものの、その他の石油製品の需要が回復している。

図表6 米国の石油消費量の伸び



(注1) 直近は03年2Q。E I A 発表の週次データを四半期データに換算。
(注2) その他の石油製品消費量は、軽油、灯油、重油、ジェット燃料など。
(資料) 米エネルギー情報局(E I A)

4 . O P E C の生産動向 (Bloomberg 推計値)

～ 6月のO P E C 10カ国の原油生産量は前月と比べて83万 b/d 少ない2570万 b/d と、6月から適用された新しい生産枠 (2540万 b/d) が比較的よく守られている。また、O P E C は7月31日に再び臨時総会を開催する。イラクの原油生産量は6月時点で64万 b/d と治安悪化などにより回復が大きく遅れているため、価格がプライスバンドの上限近くで推移する限りO P E C が減産を決定する可能性は小さい。

図表7 O P E C 加盟国別の生産動向

(万バレル/日)

国名	生産量(5月)	生産量(6月)	超過量(6月)	生産枠(2～5月)	生産枠(6月～)	産油能力
サウジアラビア	920.0	863.0	37.4	796.3	825.6	1,000.0
イラン	370.0	360.0	-12.9	359.7	372.9	390.0
クウェート	228.0	218.0	14.2	196.6	203.8	235.0
U A E	227.0	224.0	2.3	213.8	221.7	255.0
カタール	75.0	72.0	6.2	63.5	65.8	85.0
ベネズエラ	268.0	264.0	-28.3	281.9	292.3	285.0
ナイジェリア	205.0	210.0	0.8	201.8	209.2	250.0
インドネシア	103.0	101.0	-30.7	127.0	131.7	120.0
リビア	144.0	143.0	7.0	131.2	136.0	155.0
アルジェリア	113.0	115.0	33.9	78.2	81.1	120.0
O P E C 10カ国	2,653.0	2,570.0	29.9	2,450.0	2,540.1	2,895.0

イラク	30.5	64.0	-	-	-	na
-----	------	------	---	---	---	----

(注1) 超過量(6月) = 生産量(6月) - 生産枠(6月)

(注2) 産油能力は、30日以内に生産可能で、かつ90日以上持続可能であることが条件。

(注3) サウジアラビアとクウェートの生産量には中立地帯の生産量が1/2ずつ含まれる。

(資料) Bloomberg

図表8 イラクの原油生産の回復状況 (I E A)

(単位: 万b/d)

	3月平均	4月平均	5月平均	5月					6月 第1週
				第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	
原油生産量	143.0	16.0	31.0	16.1	17.9	27.9	47.1	65.7	67.8
北部油田	na	15.0	19.9	6.3	10.9	18.7	33.5	43.3	50.0
南部油田	na	1.0	11.1	9.9	7.0	9.2	13.6	22.3	17.8
原油処理(精製)量	30.2	7.4	21.5	12.0	17.0	25.1	29.7	27.0	33.8
原油輸出量	112.8	8.2	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在庫変動	0.0	0.4	9.4	4.1	0.9	2.8	17.4	38.7	34.0

(注1) イラクは6月22日以降、備蓄原油約950万b(約2.6万b/d)を米、スペイン、フランス、イタリア、トルコの企業に輸出している。

(注2) 図表7のBloomberg推計の生産量とは若干誤差がある。

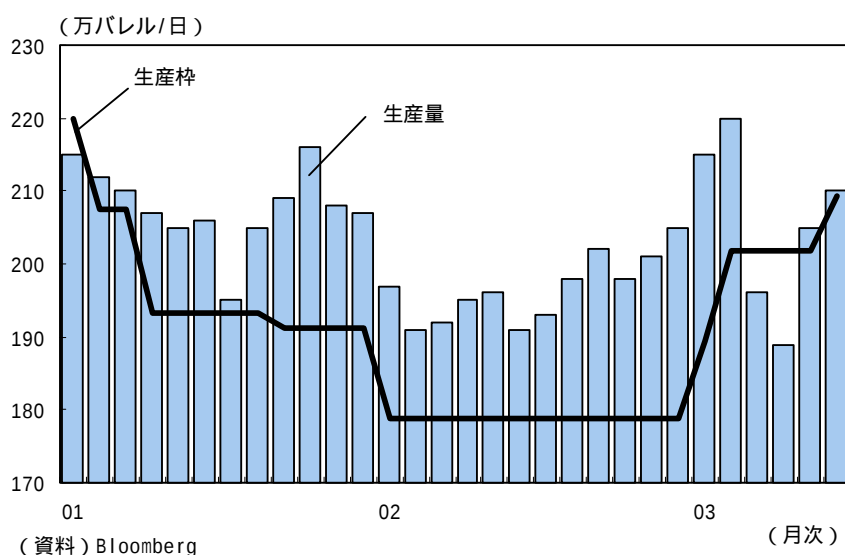
(資料) I E A 「Oil Market Report June」

6．トピック：頻発するナイジェリアの生産中断

～ 今年に入ってから世界第 11 位（O P E C 第 5 位）の産油国であるナイジェリアで民族紛争や石油産業のストライキが頻発しており、その度に原油生産が中断され、原油価格に大きな影響を与えている。硫黄分の少ないナイジェリア産原油（ボニーライト）はガソリンの生産に適していることもあり、生産量の 4 割弱が米国に輸出されている。そのため、ナイジェリア産原油の生産中断は米国の需給逼迫を招き、W T I 原油の価格押し上げ要因となりやすい。

今年 2 月 15 日にはナイジェリア石油・天然ガス上級労働者協会（PENGASSAN）が賃金未払いと労働条件を巡る政府との交渉決裂を理由にストライキに突入した。この時は PENGASSAN と政府の話し合いによりストライキは 6 日間で終了したため、原油生産への大きな影響はなかった。また、3 月中旬には石油利権を巡る政府対住民および住民間で紛争が発生し、ナイジェリアに進出しているシェルやシェブロンなどの外国石油企業が操業停止に追い込まれた。この時は、ナイジェリアの生産量の約 40% を占める約 80 万 b/d の原油生産が 4 月上旬まで停止し、原油価格の押し上げ要因となった。さらに 6 月末にはナイジェリア政府がガソリン価格を 54% 引き上げると決定したことに対し、石油労働者組合がゼネストを開始し、7 月 13 日までに政府と合意できなければ生産を全面的に中断すると警告している。米国では毎年 5 月末から 9 月にかけてガソリン需要が盛り上がるため、この時期はガソリンの生産に適したナイジェリア産原油の引き合いが強まる傾向がある。足元の価格上昇はナイジェリアの生産中断観測を材料に買いが膨らんだことも一因であると考えられる。

図表 9 ナイジェリアの原油生産動向



6．カレンダー（7月7日～7月21日）

月	日		出来事
7	8	火	米 A P I 週間在庫統計発表
7	9	水	米 E I A 週間在庫統計発表
7	15	火	米 A P I 週間在庫統計発表
7	16	水	米 E I A 週間在庫統計発表